

## たかが川柳されど川柳（十一）

上野 一彦

### Nからの贈り物

別れの唐突さ、別れの呆気なさ、それがひとしお心に沁みる。半世紀の間、絶えず友として一緒に行動してきたNが世を去った。

若い時から呼吸器系に弱みを抱え誰よりも身体を気遣っていたのに。いささか臆病というか、慎重、敏感なNが、一年前、身体の不調を感じ、医者に診せると直ちに専門病院に。そこで家族が呼ばれステージ四の末期癌。手術不能のためお決まりの抗癌剤と放射線治療。一時体調を戻し期待させたが病魔は手を緩めなかった。

すべて後から聞いた話だが、八カ月後に誤嚥性肺炎治療か癌治療かの究極の選択。前者を選び、最期の看取りは病

院か自宅かの選択。インフォームドコンセントと本人の意思の尊重というお決まりの手続きを採り、自宅に帰ってほとんど意識のないまま、数日で世を去ったという。

精神的な苦しみは本人しか知りえぬことだが、すべてのことに満足できる人生だったと家族には伝えたそう。本人の意思とのことだが、家族だけの密葬。すべてが終わってから奥方からの手紙で彼の死を知った。

長い手紙は読むのも返事をするのも面倒だろうと、SNSでときおり連絡をとっていた。今思えば亡くなる一ヶ月前、LD学会で宇都宮にいたり、インターネットで、「東大勝点一五年ぶり、対法政八九年ぶり」の報を知り、無類の六大学野球好きで時折神宮に足を運んでいたNにシ

ョートメールを送ったが反応なし。返事が来なかったのは初めてのことだった。彼自身、最後の戦いをしていたと後で知った。

冬至の翌日、N（川柳雅号アキラ）の墓参りに親しい友人たちと共に行ってきた。四年前アキラさんが母上の逝去の折に作られた鎌倉霊園の墓は穏やかな陽に包まれ、ゆっくりと別れを告げることができた。思えば体調悪く多年草の編集代わってほしいとの連絡あつてから、たった一年で「一人の命なんてあつけないもんだよ」と教えるように旅立ってしまうとは。

多年草も第一〇〇号を超えたが、現在の多年草がスタートする前の準備期（あまりの悪さに、師匠格のO氏が一度中断）を含め、アキラさんは常に最初からのメンバーだった。現在、某国立大学の学長をしているリテイ氏を加え、図々しくも「六歌仙」ならぬ「六地藏」などと悦に入っていた。その後、女性のメンバーも次々参加、下剋上の戦国時代が続いた。時は移り、女性名人として六地藏をなぎ倒したゲンさんの突然の休会、続いてリテイ氏の休会。さらにカズオ氏の休会ならぬ退会と多年草は苦難の時期をむかえたのだった。

そうした激動のというより、青息吐息、今にも途切れ

そうな軌跡の中でアキラさんは多年草集団での最初の物故者となった。しかし、アキラさんは最後に素晴らしい贈り物をわれわれにくれた。退会していたカズオさんも一緒に墓参りに行ったのだが、「アキラさんが多年草に戻ってこいよ」と墓の中からつぶやいた声が聞こえたのか、そのカズオさんが再び川柳に復帰すると帰り道に言った。アキラさんありがとう。

### 友が逝く中途半端な七〇代

#### 山の辺の道を行く

関西に仕事で行く機会は少なくないが、ゆっくり日本の古都を巡る余裕はあまりなかった。それでも足腰がたつうちにといい焦りがじわじわと湧いてきており、最近はその思いで旅行案内を見ることが増えてきた。

まだ春の気配も感じられない二月、奈良盆地を南北に縦断する日本最古の道として知られる「山の辺の道」を歩いてきた。五年以上前だったか、晩秋に家内と浄瑠璃寺と岩船寺を巡った際の、途中の田舎道で風景が心地良く残っていたことが気持ちを奮い立たせた。

京都から奈良へ、ホテルに荷物を預け、万葉まほろば線

の終点桜井の手前、素麺で有名な三輪で降り、まず大神神社、玄寶庵、桧原神社、そして景行、崇神天皇陵を経て、古道の程にある長岳寺まで、時折、風花が舞う古道であった。すっかり冷えたからだを温かい蕎麦と筍の天ぷらで暖め、柳本から再びまほろば線に乗り奈良のホテルに戻った。

夕食後、奈良を代表する三社寺(春日大社、興福寺、東大寺)を幻想的な光の回廊でつなぐ、奈良春日野国際フォーラムのイルミネーションを見にでた。この期間、夜間特別拝観できる興福寺 国宝館で阿修羅像、八部衆立像十大弟子立像などの国宝が見られる特別な週間だった。ライトアップの東大寺 五重塔、南大門の阿吽の金剛力士像など昼間とは違った雰囲気の中で再会は強く心に残った。総歩行数三万五〇〇〇歩、お陰で夜はぐっすりと眠れた。

翌日は、再び桜井から近鉄大阪線で長谷寺へ行ってきた。二〇年振りですっきり弱くなった足腰を叱咤激励の参拝。回廊の階段の低い段差に優しさを感じつつ、本堂の清水寺にも似た舞台では、昨日とは打って変わった冬の陽に、温もった材に寄り掛かりつつ、いつまでもそうしていたい心地良さがあつた。

これも目的の一つだったのだが、寺下に思い出の茶店を見つけ、「以前こちらで美味しい葛きりを頂いたのだ」が

以上もある。まさに洋上アルプスの名にふさわしい。

黒潮のエネルギーをたっぷり蓄えた風が山にぶつかり上昇気流を生み、雨と霧をもたらし、川は花崗岩の山を削り、この島独特の気候や深い谷を作り出す。わが国にある一六〇〇種もの苔類のうちの約六〇〇種、約七〇〇種といわれるシダ植物の約半数がこの島に分布するというのもうなずける。

その苔むしたうっそうとした照葉樹の森は、宮崎駿監督の長編アニメーション映画「もののけ姫」の舞台にもなったという。鹿児島から約一〇〇キロ、鉄砲伝来で知られた種子島の西隣に位置する直径約三〇キロ、周囲約一〇〇キロのほぼ円形の島だが、この島の山の高さゆえに、亜熱帯から冷温帯までのさまざまな生態系を育み、世界的にも貴重な自然として評価され、日本で初めて世界自然遺産として登録された。

屋久島といえば、樹齢七〇〇〇年ともいわれる縄文杉がすぐに頭に浮かぶ。縄文杉自体は一〇〇〇mをはるかに超える高さがあり、四時起きしての約一〇時間のトレッキング。後期高齢者の身での日帰りは無理。同じような杉は島にいくらかでもありますの言葉に誘われ、後は想像力で補うことにした。

屋久杉は、屋久島の標高五〇〇m以上の山地に自生する

というのと、「はい、あります」とのうれしい返事、湯素麺のあと、食することができた。店番のおばあさんはすっかり耳が遠くなられたようだったが、お孫さんと思しき娘さんにいたわられながら番をする姿に日本の原点を見る思いがした。

記憶を辿ると前回は、室生寺から長谷寺というコースで、台風で倒れた大樹に痛んだ室生寺の塔が修復のためにブルーシートが掛けられていた。本当はその室生寺まで足を伸ばしたかったのだが、体育会系並の移動はもう無理。次回来るといふ約束も当てのないことながら、余韻を残しつつ帰京した。

#### 小旅行これを最後と積み重ね

#### 屋久島紀行

「月に三五日雨が降る」というセリフは林芙美子の名作「浮雲」の一節と聞く。それほど屋久島は雨が似合う。

島を流れる何本かの川も滝も驚くほど水量は豊かである。千尋滝、大川の滝といった堂々とした滝もいくつかある。

火山の噴火でできた島ではなく、地層の隆起でできた島である。九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、一六〇〇mを超える山が一〇峰を超え、一〇〇〇mを超える山が四〇峰

スギをいう。狭義には、このうち樹齢一〇〇〇年以上のものを指し、樹齢一〇〇〇年未満のものは「小杉(こすぎ)」と呼ぶそうだ。屋久杉は成長が遅く木目が詰っており、降雨が多く湿度が高いため、樹脂分が多く腐りにくい特徴を持つ。そのため樹木の寿命が長いといわれ、樹齢二〇〇〇年以上の大木が多い。

縄文杉の樹齢だが、およそ七〇〇〇年前に鬼界カルデラからの大噴火で屋久島を含む九州南部諸島の大型植物は全滅したと考えられており、その影響は本州にまで広く及んだとされる。従って、もともと古い屋久杉とされる縄文杉も齢はそれ以前にはさかのぼらないわけだ。

神々の島といわれ、足腰の立つうちに何とか行ってみたかと思いつつ二泊三日の旅であったが、白谷雲水峡、ヤクスギランドと樹齢三〇〇〇年といわれる紀元杉との出会い、太古の原生林での森林浴だけでなく、亜熱帯のガジュマルの大木や可憐な大五加葉黄蓮(オオゴカヨウレン)の花など、たっぷり屋久島を味わった。島には猿やヤギがいるが餌付けされていないので、かえって人を意識せずそれも新鮮だった。宿で黒じよかの酒器で飲んだ焼酎のお湯割りもまた格別だった。



(ものけ姫の舞台ともなった苔むす森)

たかが川柳 されど川柳 (平成三〇年上半年)

(川柳同人「多年草」(毎月)、川柳同人「だんだん」(隔月)に発表した拙句を解説付きで載せています。)

一月

だんだん (五七号)

無人駅伝言板が風にゆれ

◇過疎化が進み無人駅となった。今は誰も使わない伝言板が風に揺れている。そんな風景は時代の移り変わりを強烈に象徴する。

棺ぐらい松にしたいがやはり梅

◇地獄の沙汰も金次第というが、死んでもなおランクが付いて回る。まあ何事も中庸といった庶民の価値観。

大人ですあの一言が許せれば 佳作

◇たった一言で人間関係がまずくなることはよくある。逆に、その一言が許せるようになれば大人というわけ。

題詠「とんとん(トントン)」

妻の肩可愛さ憎さおりませて 佳作

◇可愛さ余って憎さ一〇〇倍というより、だんだん当初の可愛い猫から化猫化するの呈。五十嵐修先生の評に感謝。

\*長年のパートナーである妻の肩を久々に揉んでやっている。正直に可愛さもあるし、憎らしさも思う肩である

(修)。

まな板の音で目覚める果報者 最優秀

◇だんだん入会依頼初のコメダル。以下の先輩諸氏の短評感謝。

\*まな板で何かをきざむ女房をもった幸せとは同感。亭主より先に起きるだけ感心。昔は鯉節をかく音で起きたが、花鯉では起きようもない(牧人)。

\*まな板で食材を切る包丁の音で目が覚めるのは幸せな立場に居る証を改めて知らされる。句の下五「果報者」という表現が効いている(修)。

\*人生の大切な時間でしょうね。素敵です♪(設子)。

拍子よく登りつめれば落ちるだけ

◇上っていくのは気持ちがいいが頂点に達すれば後は落ちるだけ。なんだか当たり前すぎますね。

多年草 (一〇一号)

別れには中途半端な七〇代

◇同級生が亡くなった。NEWSなどで七〇代の有名人の訃報を聞いてもそんなものかと思うのだが、友の死はこたえる。やっぱり八〇代ぐらいまで頑張りたいな。

ミサイルの距離をのばして背比べ

◇北朝鮮、時間を稼ぎ、ミサイルの距離を伸ばし勢力の拡張を図る。歴史的に見て、そんな偉業ですかね。強国ではなく凶国、狂国。

題詠「飛ぶ」

あの人と恋のバンジーする勇氣 佳作

◇高所恐怖症の私はバンジージャンプなんて気がい沙汰でも、あの日あの頃、そんな気分の恋をしないわけではなかったが。

飛ぶ鳥を落とす鼻息ロケットマン

◇トランプ大統領の「金正恩はロケットマンだ！」を受けての一句。大勢の国民の犠牲の上に核とミサイル開発

飛ぶ鳥を落とす鼻息ロケットマン

一路。ロケットマンは向こう見ずさを揶揄しているんでしようね。

二月

だんだん 新年会

**矜持棄て詔（へつら）い媚びる日本犬**

◇大国にすり寄り、それが外交だという。自分の国を自分で守れぬ悲しさ。今矜持をもつ、感じさせる政治家は極めて少ない。世襲議員が横行するわが政界。

題詠「犬」

**玄関で三つ指ついて犬が待つ**

◇家に帰ると、妻の代わりにペットの犬がご主人様のお出迎えお迎え。そんな現代サラリーマン川柳。

席題「雪」

**雪空に逝つたいとは同じ歳**

◇訃報に年下の従弟が逝つたとの連絡。やさしい笑顔を思い出しつつ、どこかで共通のDNAに自分の余命を知る。

**道端の汚れた雪が春を告げ**

◇積もれた雪が溶け汚れ、そして再び凍り、汚れながら溶けそして春を迎えるそんな繰り返しを毎年道路上で繰り返しす。

多年草（一〇二回）

**コロロにもバンドエイドを貼りたい日 佳作**

◇小さな傷は手足だけでなく心にも負う。そんな傷をそつと隠し直してくれるバンドエイドが欲しい。

**ヒゲ落とす誰も気づかぬ肌寒さ**

◇何年も蓄えたひげがある日落とした。きつと周囲はびつくりするだろうと思いきや、美容院に行った日に気づかぬと機嫌の悪い家内さえなにもいわない。そんなに存在感がなかったのか。

**北応援団同じ制服同じ顔**

◇冬季オリンピック。突然参加を決めた北朝鮮。応援の美女軍団、同じ制服、同じ帽子そして同じ動作の応援。まるでロボットのようないき味さを感じる。

題詠「化ける」

**大物に化けるといわれただけ太り**

◇大物になったのは体重だけ。化けそこなったのか見込み違いだったのか。確実なのは肥満体重。

**この頃は男もするよ薄化粧**

◇長野の冬季五輪だったか。ジャンプの男子選手が眉毛を描いていた。化粧は女性の特技だと思っていたが今やそれは男性にも広がりつつある。

**人前で化粧をするは福笑い 佳作**

◇福笑いの面白さは、出来上がりのおかちめんこさ。さすれば電車内での化粧なども、福笑いのおかしさを感じる。

三月

だんだん（五八号）

**僕自身バージョンアップ出来ません**

◇スマホでもPCでもほとんどバージョンアップしていく。使うこちら自身はそれについていくのがしんどい。

**断捨離の手始めにまず見栄を捨て 佳作**

◇終活とか断捨離は最後の大切な仕事となってきた。あまり格好をつけずにのぞむことが肝要。

**十分に生きたと言って今日も寝る 佳作**

◇やり残した事がまだないではないが、まあこんなものかなととりあえず呟やきつつ寝床に入る。なんだか川柳も肩の力を抜いて作れるようになった。\*このような面白い句に野暮な解説・短評は不要です。見彦さんのこの短評はうれしかったなあ。

題詠「平凡」

**幼き日非凡の誉れあったのに**

◇神童とまでは言われなくてもそれなりに親の期待を受け、まさに希望の星だったのに、歳を経るにしたがい・

◇最後の晩餐に白米と少々のお菜と私は答える。この平凡さこそ究極の日本人なのではないのだろうか。

**半世紀フアザークロック凡凡と**

◇半世紀ものあいだフアザークロックは淡々と時を刻み続けてきた。その家族を見守り続けながら。平々凡々と・

**やつたあ金くやしい銀にホツと銅 最優秀**

◇オリンピックの報道を見てあることに気がついた。銅メダリストは何とかメダルが取れたことにほっとしている。銀メダリストは、銀なんか欲しくなかったと悔しがる。金メダリストは達成感に満ちている。そんな様子を一句。

**嘘つくも適材適所お役人**

◇役人は国民のためではなく保身と組織を守るために平気でうそをつく。それを適材適所と呼ぶらしい。

**羽が生え将棋スケート上りつめ**

◇アイススケートの羽生君、感動の金メダル、将棋の羽

生名人、永世七冠、どちらも国民栄誉賞。同じ羽生でも呼び方が違う。

題詠「種」

種蒔きはしたが刈り入れ別の人 佳作

◇世の中ではよくあることだが。「成功の一手手前でやめる癖」の人間にとつてはまま多い。

人種の起源たどればみんな同じ猿 佳作

◇ダーウインの説に従えば、人間は猿から進化したそう  
だ。そうだとすれば君も僕もみんな猿友達というわけ。

地下室にニュースの種が眠ってる

◇財務省の地下には「ない」答弁した改ざん前の資料がどつさり眠っているそう  
だ。それが世に出ると大変なニュースになる。まさに特ダネの宝庫。

四月

多年草（一〇四号）

過疎の村まだ生きてると鯉のぼり 最優秀

◇誰も住んでいないかのような山村に翻翻とはためくこいのぼり。子供たちが巣立つて村を出て行った後も、毎年  
もまだ生きてるぞと空高くこいのぼりが泳いでいる。

嘘一つあと追う嘘の重ね餅 佳作

五月

だんだん（五九号）

◇動物園も同じなのですが、ひよつとすると水槽の中から金魚たちは家族を毎日観察しているのかな。

金魚たち鉢の中から家族みる

◇携帯電話にしてもガラケイに象徴されるガラパゴスは時代遅れのたとえ。ツールだけでなく実は私自身がガラパゴス化しています。

いつまでも夢中になれるもの探す

題詠「中」

ガラパゴスどこと思えば脳の中 最優秀

◇一強の奢りか、無理が通れば道理が引つ込むのたとえ通りのことが多すぎます。せめて支持率で敏感に評価したいものです。

支持率の上下が国を左右する

◇うそを一つつくと次々とうそが重なります。この一年、国会で嫌という程見てきました。清廉な政治家が減りました。

ついに来た脳と心の空洞化 佳作

◇認知症の恐れがじわじわ近づいてきます。それよりも無感動というか、心のほうにも何やら忍び迫ってくる気が  
します。まさに脳と心の空洞化です。

ひと筋の涙で訳を知りました

◇言葉はなくてもその時ほほを伝わる一筋の涙。それが雄弁に気持ち  
を伝える、そんな場面が人生にどれだけあったかな。

肝臓も手抜き始めた酔えぬ酒

◇そんなにお酒強いほうではありませんが、それでもセンサーが壊れてしまつたのか、いくら飲んでも酔えない酒のあること  
知りました。

題詠「深い」

自分だけなぜ高い山深い谷

◇人生を振り返ると、自分一人が苦勞してきたような気がする時  
があります。それは思い過ごし。

われ平目深き底から空見上げ

◇深い底から空を眺めている自分。やたら村度しまくる現代のヒラメを  
思わず官僚を読んだわけではありませぬが、そう取られてもしよ  
うのない昨今です。むすびは「仰ぐ空」がよいという意見も  
いただきました。

深窓のお嬢様など今いずこ

◇時代が変わり、今時、深窓のご令嬢なんて言う表現もはや時代遅れ  
かも。でもそんなお嬢様いるのなら是非会ってみたい。

多年草（一〇五号）

何度でもこれが最後と言いながら

◇旅行など、最後に行っておきたいというセリフよく出ます。足腰の立つうち  
にとか。確かにだんだんハードなことは確実に減ってきています。

食事済み薬自慢が店開き

◇友人と旅行など行くと、食事後にそれぞれが薬を互い出し合つてのさながら  
品評会の御開帳。

死んでごらんみんなが君を懐かしむ 佳作

◇親しい友人が一人また一人と逝く。妙にそんなやつを思い出すことが  
増えてきた。自分が死んだらみんなどんな顔をするのだろう。

題詠「遠い」

五十年近くて遠きわが夫

◇五〇年といえば金婚式。何もかも知り尽くしているはずなのに、妙に  
わからない部分もあるような。

聞こえないふりもとっさの思いやり 佳作

◇あえて聞こえないふりをするのも大人の所業。それこそある種の思いやりかも。もつとも本当に聞こえないこともあるのだけれど。

都合よく選り聞こえる遠い耳 佳作

◇よいことは聞こえ、悪いことは聞こえないという老人固有のエゴ。そんな選択的な耳こそ長生きの秘訣かも。

六月

多年草(一〇六号)

外遊のタラップだけは手をつなぐ 佳作

◇日米ともにあまりしつくりいていない首脳夫婦。外遊時、必ず報道される飛行機のタラップだけは手をつなぐが、なにやらわざとらしく無理がある。

トランプの財布となった安倍日本 佳作

◇さんざん罵り合っていたのに、突然の変わりよう。そのツケは日本に回す厚かましき。どっちも自分の選挙を考えての事。

白々しい嘘つく大人増えました

◇真摯に反省だの、徹底的にウミを出すだの、巧言令色仁少なしですね。

題詠「感謝」

背後からそっと抱きしめありがとう

◇まるで映画のシーンのようですね。そんな感謝してみたい。一本背負を食ったりして。

カミさんに感謝言ったら勘ぐられ 佳作

◇思い切って言ったら、いつもと違うので妙に勘ぐられたりして。日頃の行いが大切という事。

ありがとうあの日あの時言えたなら

◇感謝は大切。またそのタイミングも大切。その一言が人生を大きく変えたりする可能性さえあるかも。

(了)